

札幌市の地域医療の概況及び 市立札幌病院の現状と課題について

検討内容・スケジュール

- 検討会議の中で議論していく内容

「市立札幌病院再整備基本構想」・「次期中期経営計画」の素案

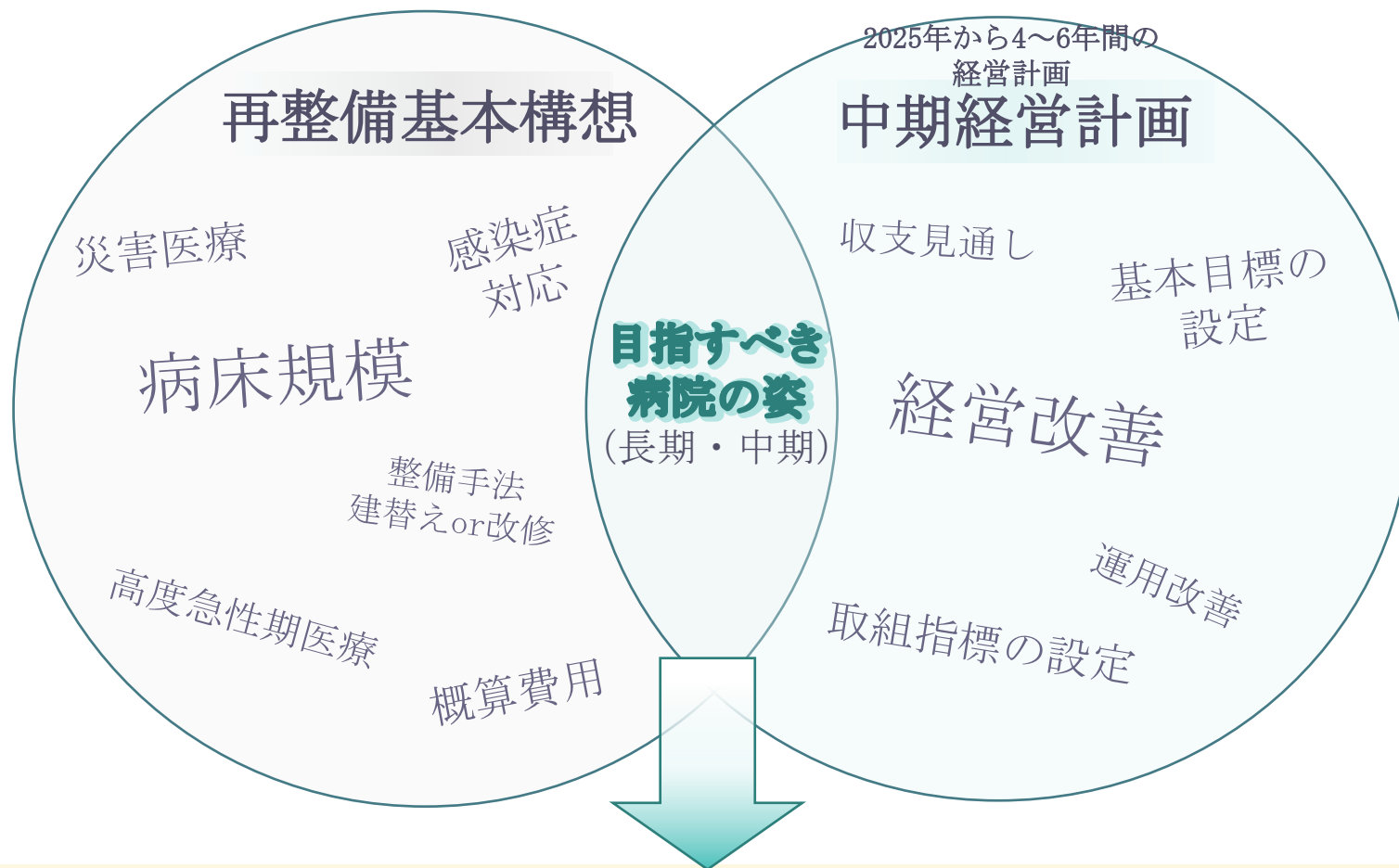
- 各回テーマ（想定）とスケジュール

回	時期	テーマ
第1回	3月14日	札幌市の医療概況・市立札幌病院の現状と課題
第2回	4月下旬～ 5月中旬頃	災害・感染症等への対応、機能強化の方向性
最大3回 程度開催	6月頃～ 9月頃	次期中期経営計画における基本目標・各種取組の設定
		病院再整備事業の概要整理
最終回	10月	最終報告



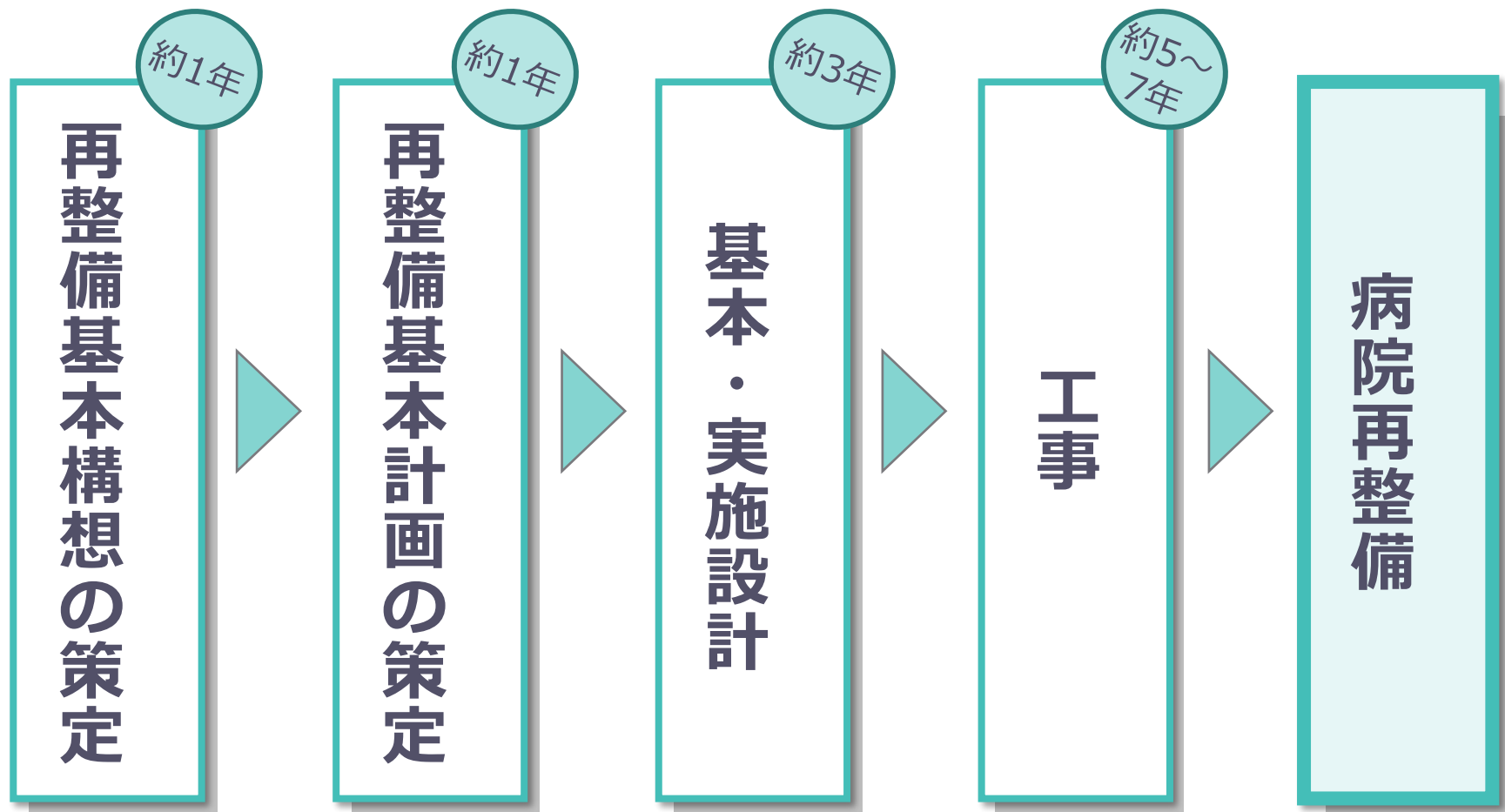
各計画の内容と公表時期

「市立札幌病院再整備基本構想」・「次期中期経営計画」の主な内容



令和6年10月頃までに素案を整理し、**令和7年3月末**に公表予定

病院再整備の流れ



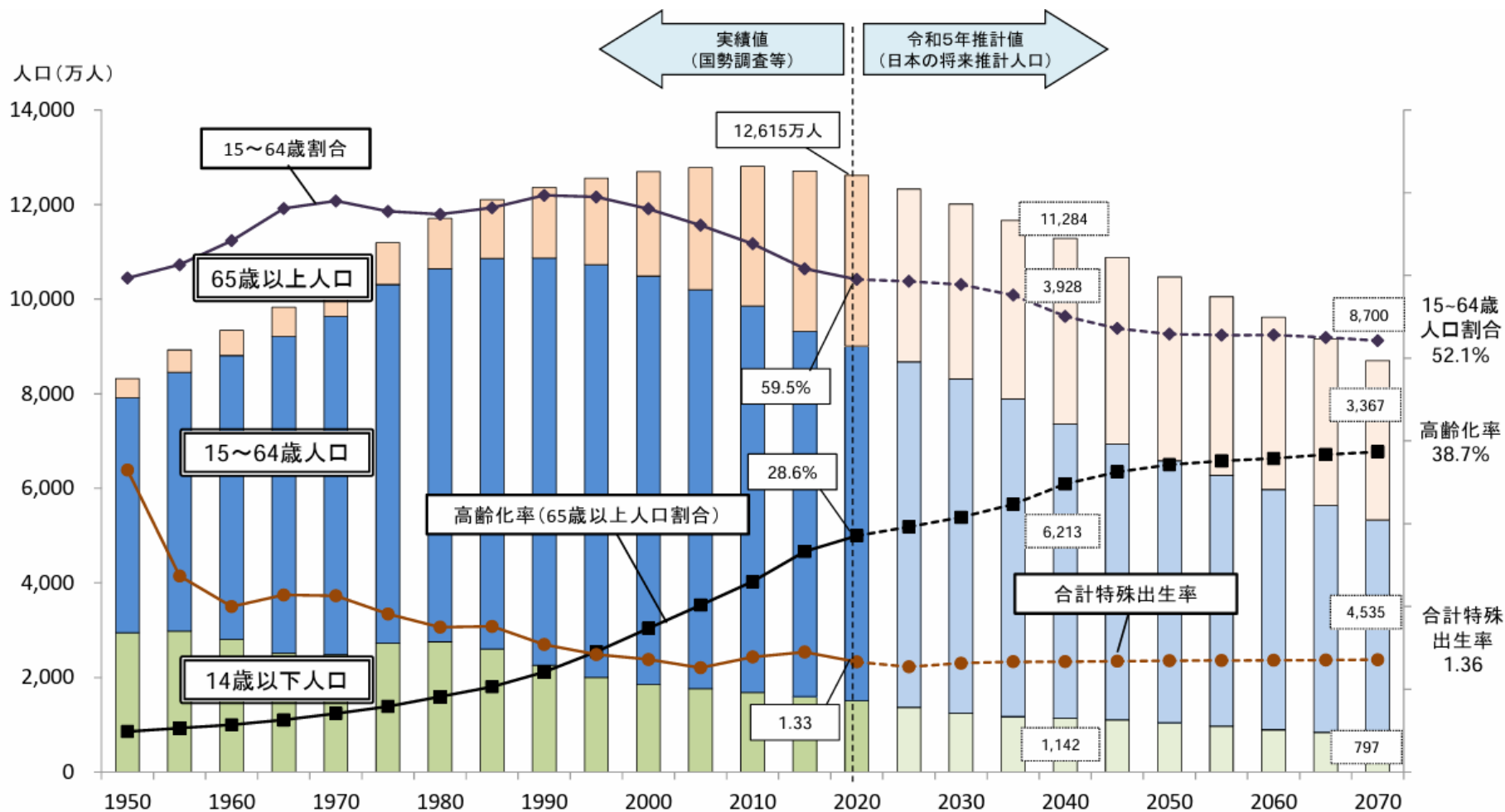
目次

I. 札幌市の地域医療の概況	6	II. 市立札幌病院の現状と課題	21
1. 人口の動向		1. 病院概要	22
(1)日本の将来推計人口	7	2. 沿革	25
(2)市内の将来推計人口	8	3. 施設の状況	26
(3)市内の将来推計高齢化率	9	4. 職員数の推移	27
(4)市内の死因別死亡数・死亡割合	10	5. 施設・設備の主な課題	
2. 受療動向		(1)老朽化の課題	28
(1)市内の年齢階級別推計入院患者数	11	(2)狭隘化の課題	29
(2)将来推計入院患者数	12	(3)新興感染症等への対応	30
(3)将来推計外来患者数	13	(4)災害医療への対応	31
3. 医療供給の状況		6. 入院患者の構成	32
(1)地域医療構想における必要病床数	14	7. 主な診療状況の推移	34
(2)病院の配置	15	8. 主な経営指標の推移	36
(3)市内病院の実績	17	9. 施設・設備の課題に対する 検討の方向性	37
4. 地域医療の概況を踏まえた検討の方向性	20	10. 経営改善に向けた検討の方向性	38

I . 札幌市の地域医療の概況

1. 人口の動向 (1)日本の将来推計人口

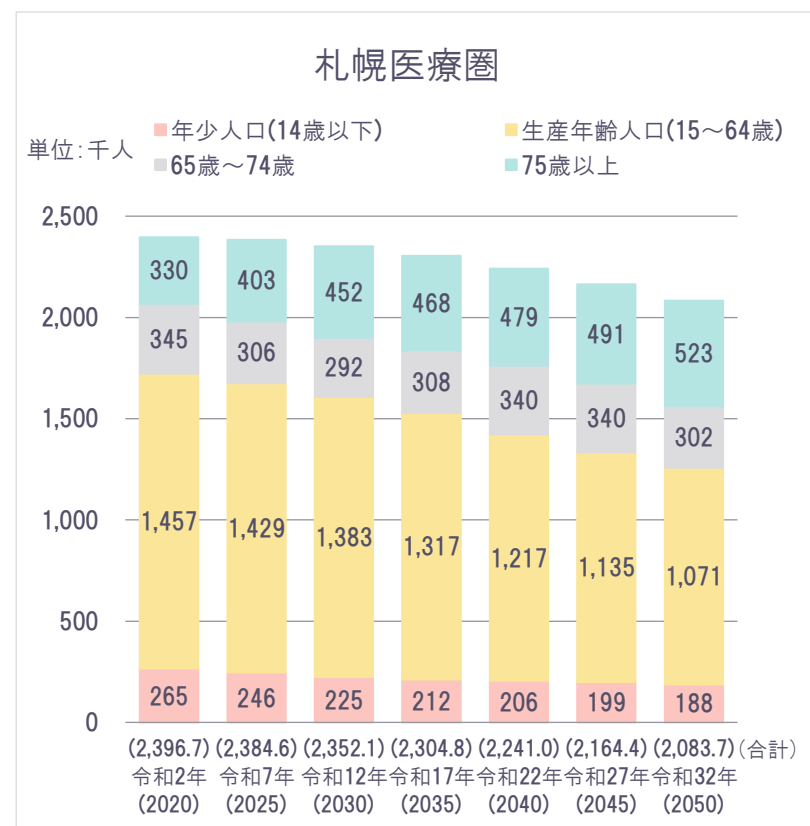
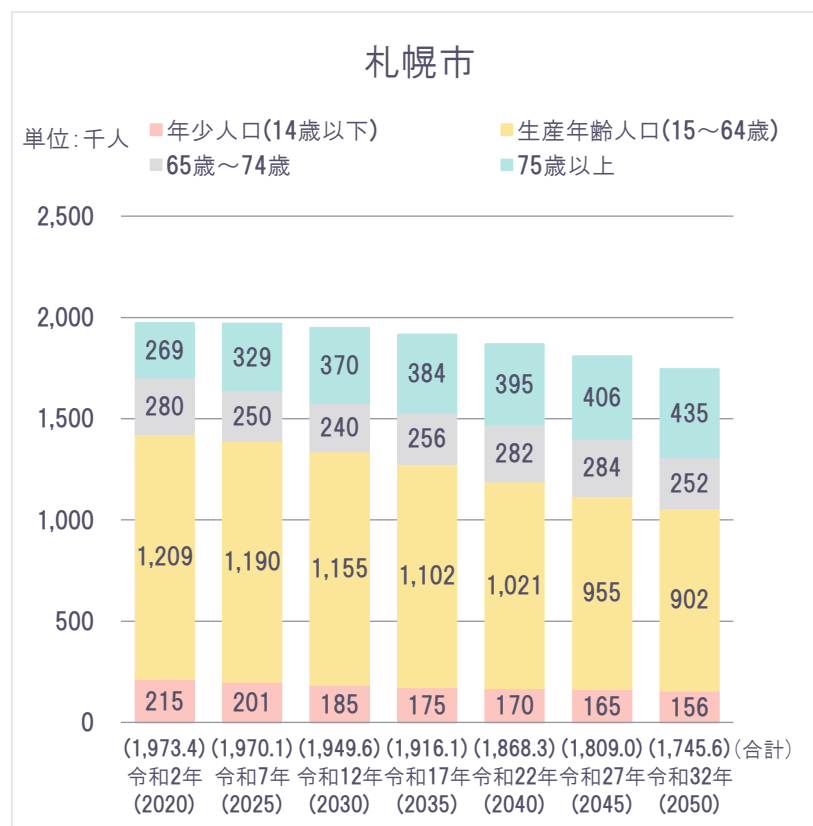
- 日本の人口は減少傾向にある。2070年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は39%の水準になると推計されている。



出典：厚生労働省「将来推計人口（令和5年推計）の概要」

1. 人口の動向 (2)市内の将来推計人口

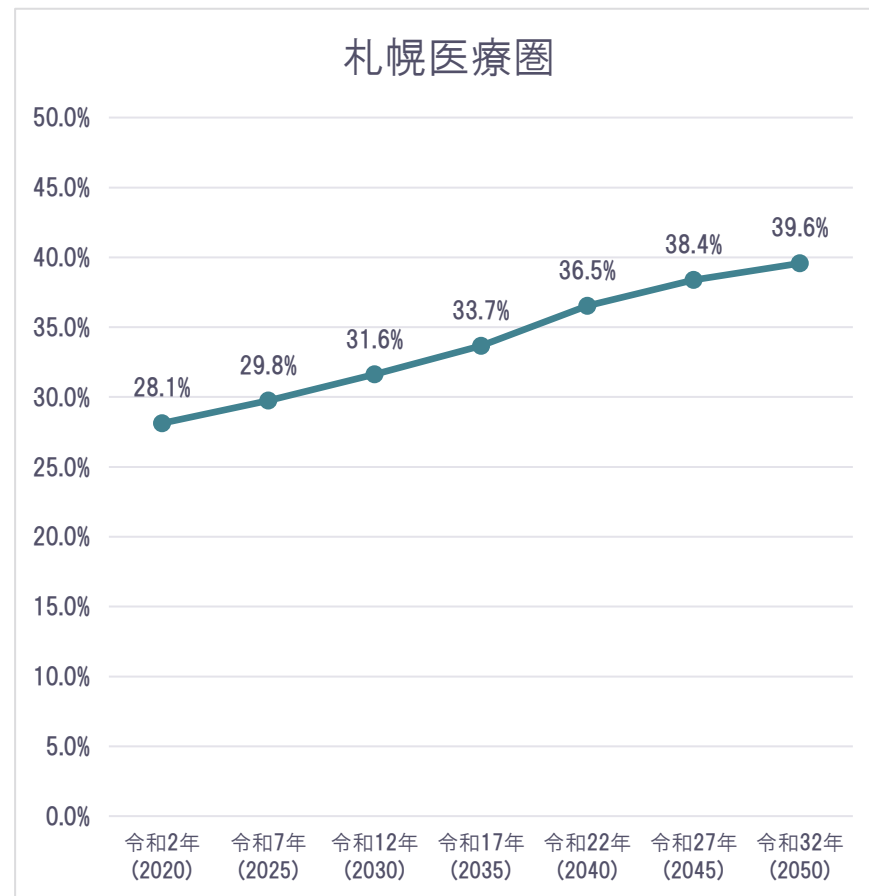
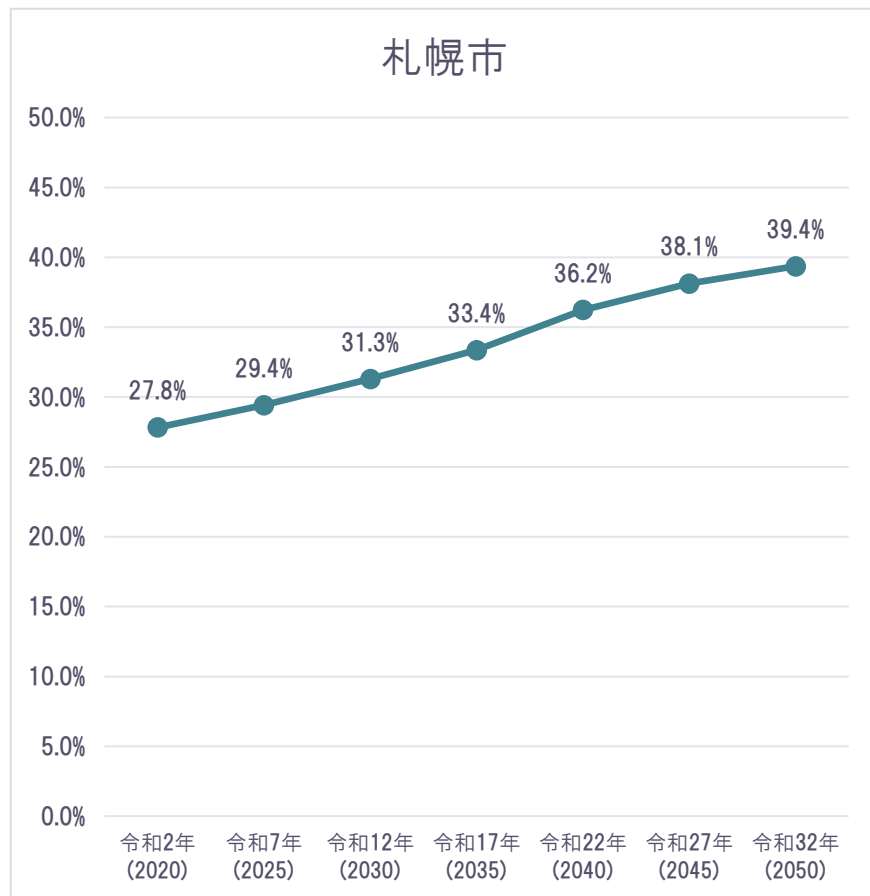
- 札幌市、札幌医療圏ともに将来人口は減少傾向にあり、令和32年（2050年）には、2020年人口の90%を下回る見込みとなっている。
- 札幌市の75歳以上人口は増加傾向にある一方で、生産年齢人口および年少人口は減少傾向にある。



出典：国立社会保障 人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年(2023年)公表)」より

1. 人口の動向 (3)市内の将来推計高齢化率

- 札幌市、札幌医療圏の65歳以上の高齢化率は、年々上昇を続け、令和32年（2050年）には39%を上回る見込みとなっている。



出典：国立社会保障 人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年(2023年)公表)」より

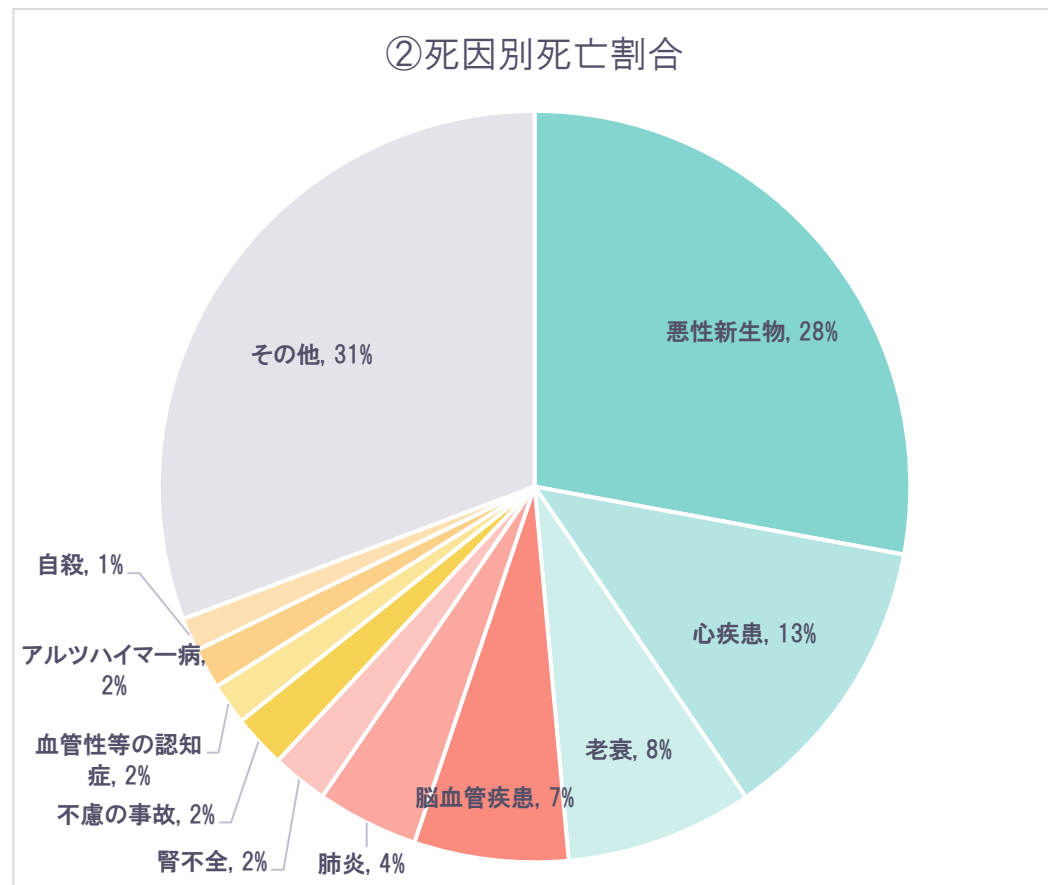
1. 人口の動向 (4)市内の死因別死亡数・死亡割合 (令和2年)

- 札幌市の死因別死亡数は、悪性新生物（がん）、心疾患、老衰の順に多く、悪性新生物（がん）が死因の3割程度を占めている。

① 死因別死亡数

死因	件数
悪性新生物	6,573
心疾患	2,967
老衰	1,898
脳血管疾患	1,564
肺炎	1,031
腎不全	570
不慮の事故	540
血管性等の認知症	423
アルツハイマー病	413
自殺	341
その他	7,241
合計	23,561

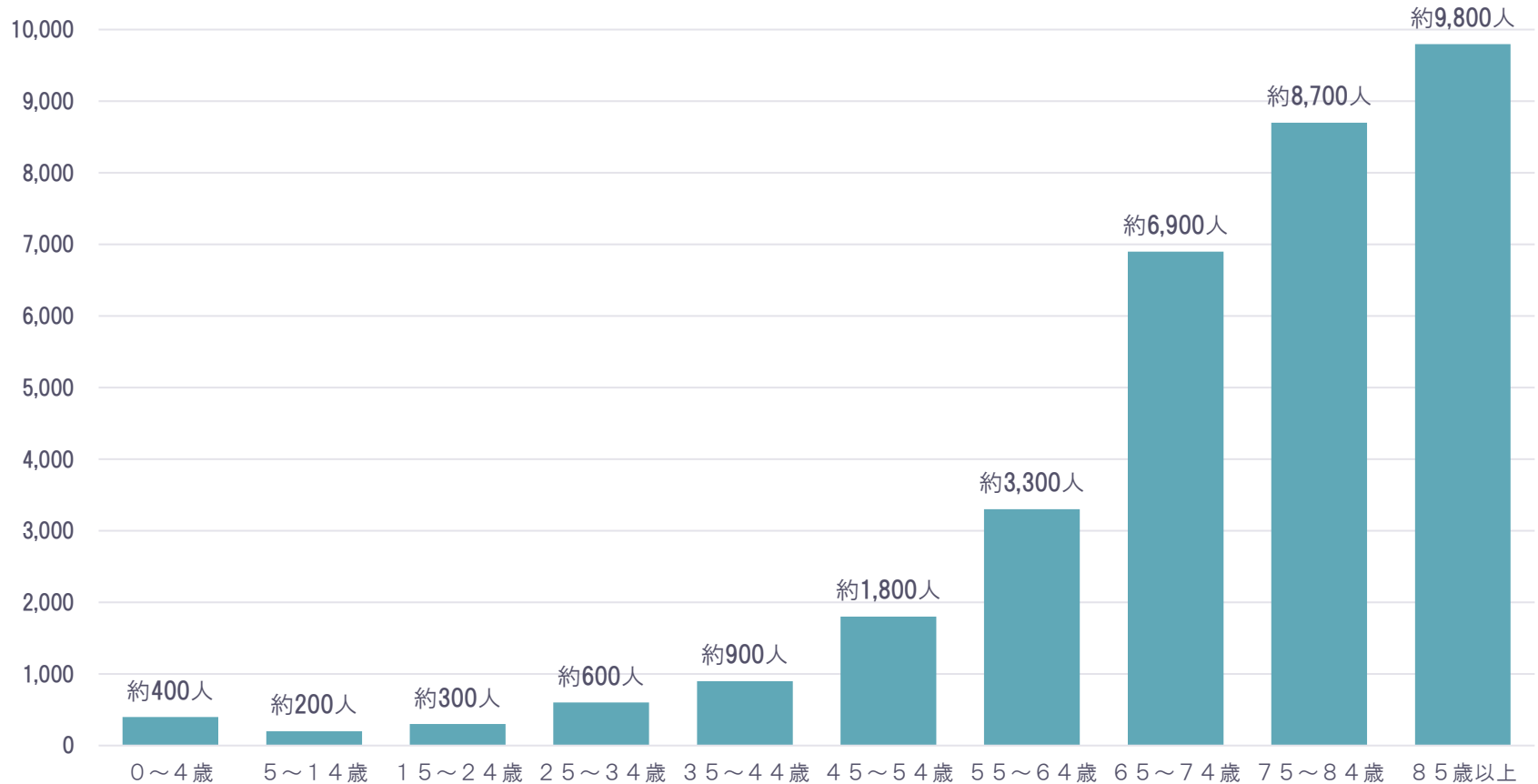
② 死因別死亡割合



出典：厚生労働省「2020年（令和2年）人口動態調査」より

2. 受療動向 (1) 札幌医療圏の年齢階級別推計入院患者数

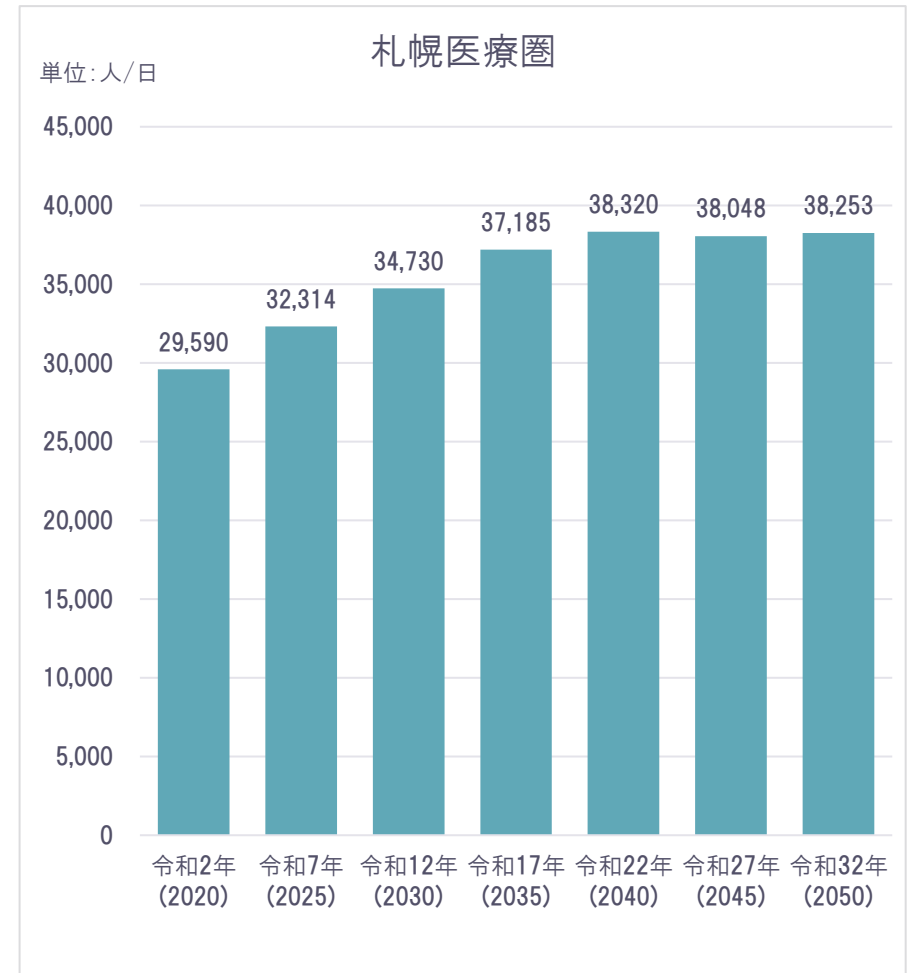
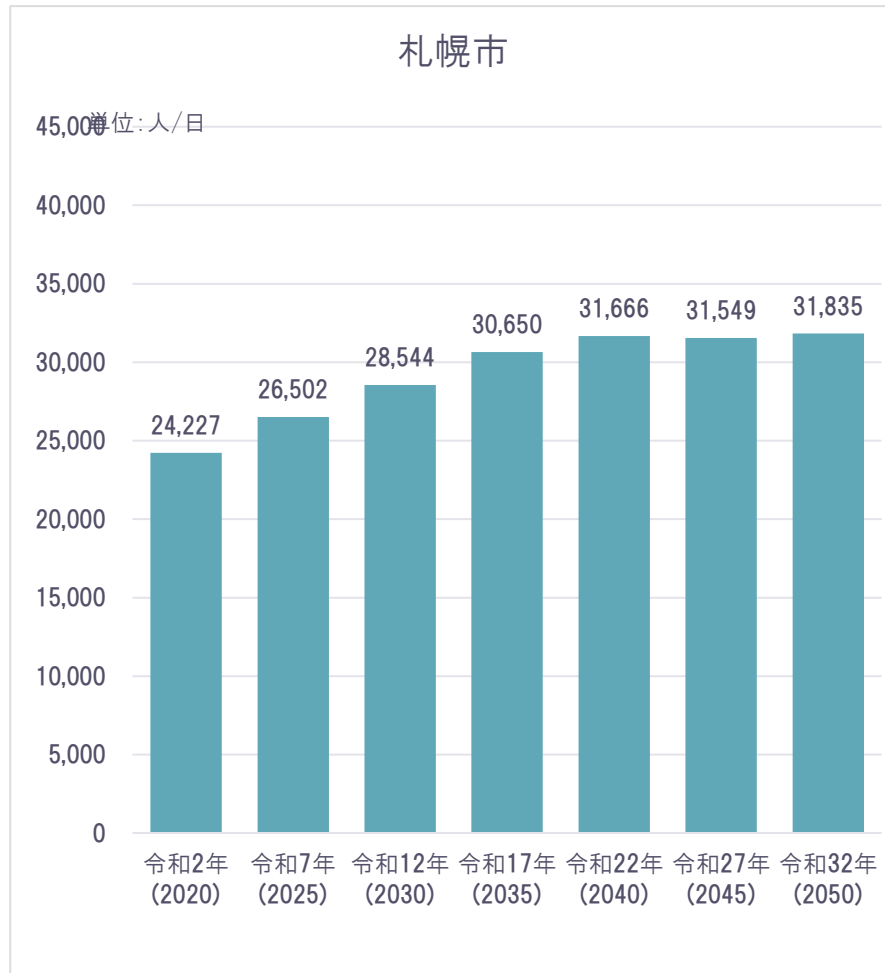
- 年齢階級別推計入院患者数は、65歳以上で急激に増加し、全体の77.2%を占めている。



出典：厚生労働省「令和2年患者調査」より

2. 受療動向 (2)将来推計入院患者数

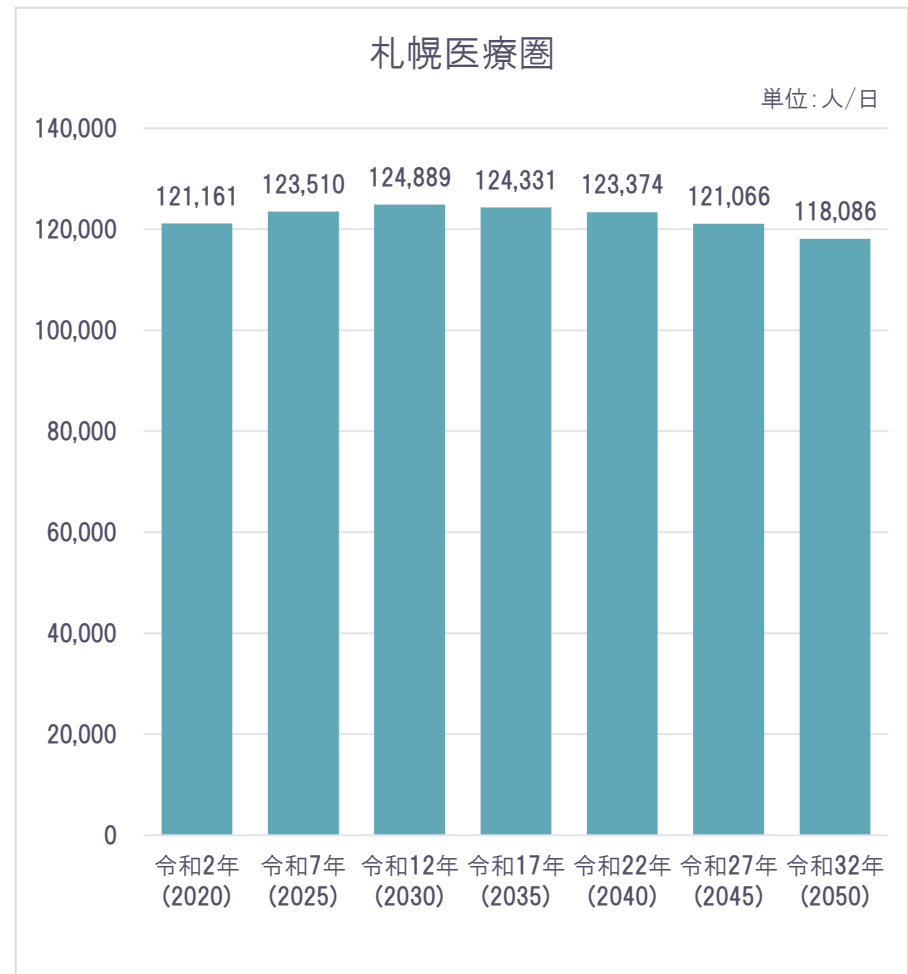
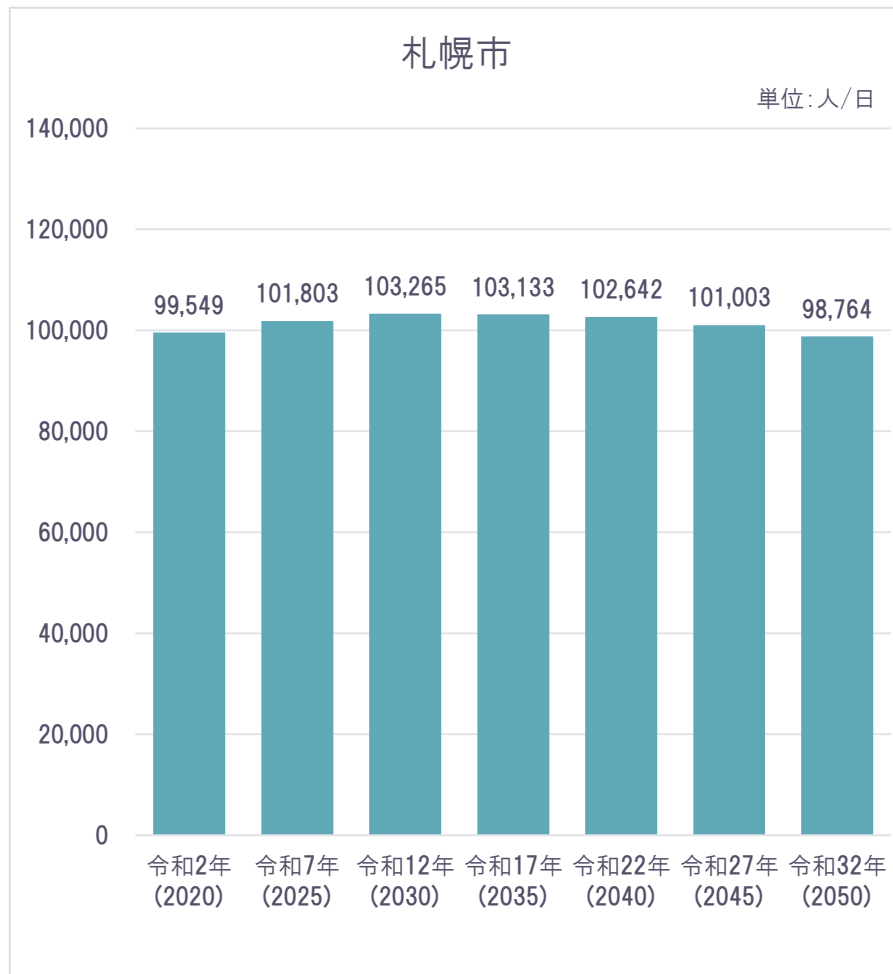
- 札幌市、札幌医療圏ともに入院患者は令和22年（2040年）まで増加傾向にあり、令和32年（2050年）にかけて横ばいとなる見込みとなっている。



試算：日本の地域別将来推計人口(令和5年(2023年)公表)×厚生労働省「令和2年患者調査 北海道の受療率」

2. 受療動向 (3)将来推計外来患者数

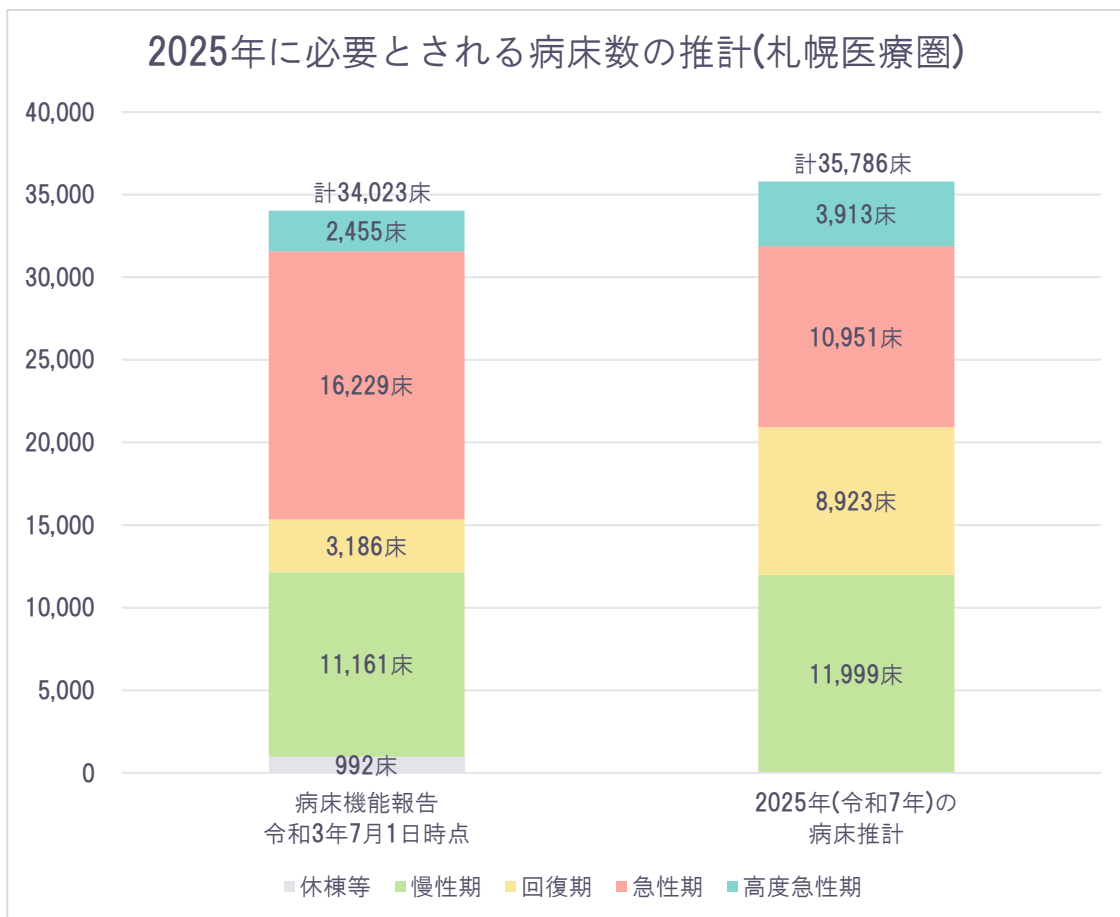
- 札幌市、札幌医療圏ともに外来患者は、令和12年（2030年）をピークに緩やかな減少傾向となることが推測される。



試算：日本の地域別将来推計人口(令和5年(2023年)公表)×厚生労働省「令和2年患者調査 北海道の受療率」

3. 医療供給の状況 (1)地域医療構想における必要病床数

- 令和3年（2021年）時点の病床数は令和7年（2025年）必要病床数と比較して、高度急性期・回復期・慢性期が不足しており、急性期は約5,300床の過剰となっている。

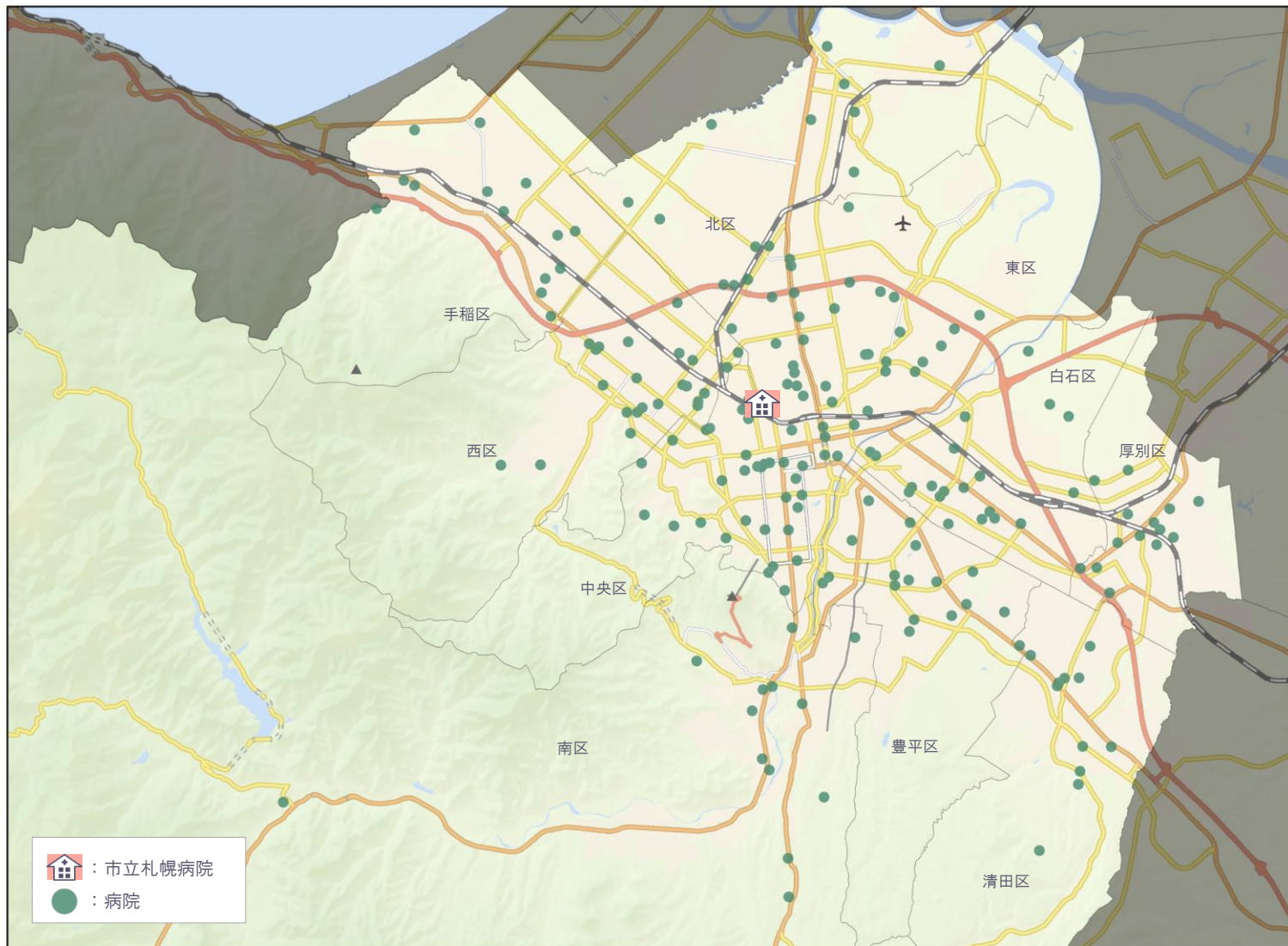


2025年必要病床推計と 令和3年7月許可病床数との差	
高度急性期	約 1,500床 不足
急性期	約 5,300床 余剰
回復期	約 5,700床 不足
慢性期	約 800床 不足
合計	約 1,800床 不足

出典：北海道「第14回札幌圏域個別調整部会 令和5年（2023年）3月（資料）」より

3. 医療供給の状況 (2)病院の配置① (札幌市内)

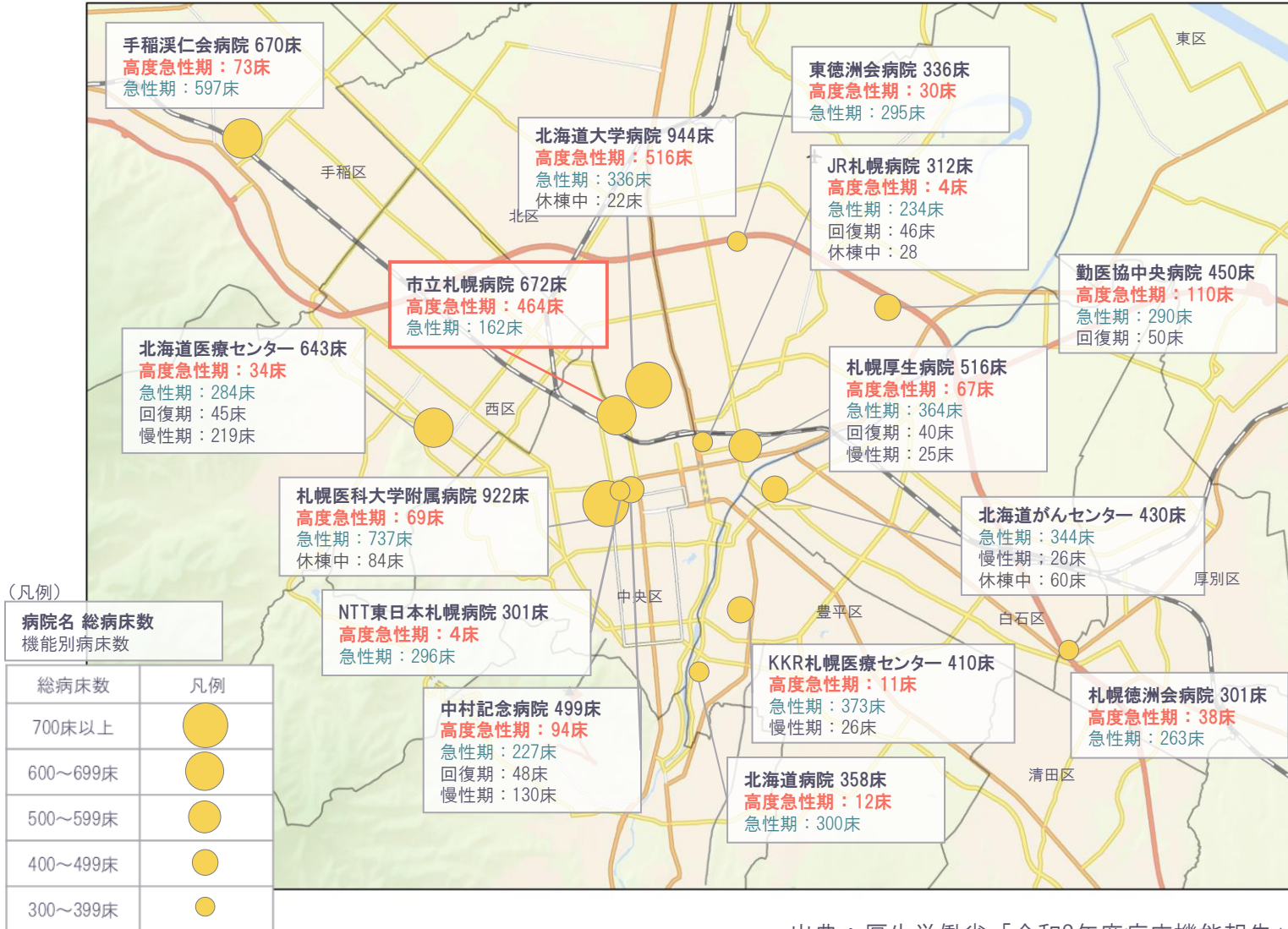
- 札幌市内には、199の病院が所在している。
- うち、市立札幌病院を含め39病院が中央区に位置している。



出典：北海道厚生局「届出受理医療機関名簿（令和5年3月時点）」より

3. 医療供給の状況 (2) 病院の配置② (機能別病床の内訳)

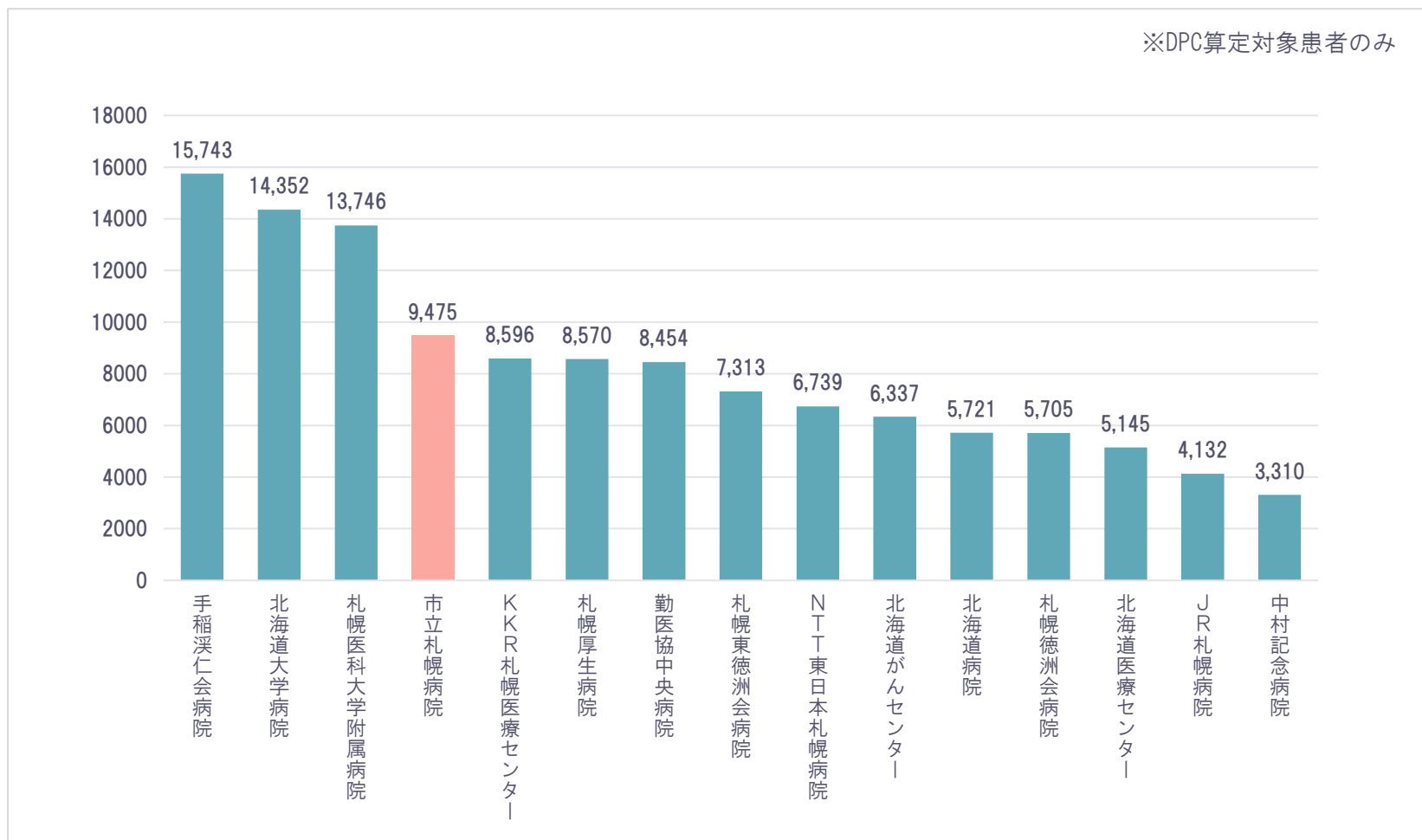
- 市内の高度急性期・急性期病床を有する300床以上の病院の配置状況は、
下図の通り。



3. 医療供給の状況 (3)市内病院の実績 (令和3年度)

- 市立札幌病院の入院患者数（令和3年度）は、市内の15病院の中で**4番目**に多い。

①入院患者数（市内 高度急性期・急性期を担う300床以上）



出典：厚生労働省 DPC評価分科会「令和3年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について」より

3. 医療供給の状況 (3)市内病院の実績 (令和3年度)

- 市立札幌病院の救急車による搬送1カ月当たりの数(令和3年度)は、市内の15病院の中で**5番目**の**116.3件**となっている。

②救急車搬送受入数(市内 高度急性期・急性期を担う300床以上)

病院名	全入院のうち救急車搬送による入院の割合	救急車による搬送1カ月当たりの数
1 医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院	35.6%	219.1
2 勤医協中央病院	29.8%	212.4
3 手稲溪仁会病院	15.2%	198.3
4 医療法人徳洲会札幌徳洲会病院	37.9%	180.4
5 市立札幌病院	14.5%	116.3
6 K K R札幌医療センター	14.9%	106.3
7 社会医療法人医仁会中村記念病院	31.3%	87.8
8 独立行政法人国立病院機構北海道医療センター	19.4%	84.4
9 独立行政法人地域医療機能推進機構北海道病院	15.9%	72.8
10 北海道大学病院	5.1%	61.3
11 N T T東日本札幌病院	10.0%	55.8
12 J R札幌病院	15.4%	53.8
13 J A北海道厚生連札幌厚生病院	6.4%	45.7
14 札幌医科大学附属病院	3.6%	42.3
15 独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター	1.6%	8.3

※DPC算定対象患者のみ

3. 医療供給の状況 (3)市内病院の実績 (令和3年度)

- 市立札幌病院の他院よりの紹介あり入院患者1カ月当たりの数（令和3年度）は、市内12病院の中で**3番目**の**569.4件**となっている。

②他院よりの紹介有入院患者数(市内高度急性期・急性期を担う300床以上)

病院名	他院からの紹介あり の入院の割合	他院よりの紹介あり 1カ月当たりの数
1 北海道大学病院	81.9%	978.6
2 手稲溪仁会病院	73.4%	957.1
3 市立札幌病院	71.0%	569.4
4 札幌医科大学附属病院	42.8%	495.7
5 独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター	91.2%	482.8
6 K K R札幌医療センター	64.6%	460.1
7 J A北海道厚生連札幌厚生病院	63.3%	452.6
8 N T T東日本札幌病院	79.5%	443.1
9 独立行政法人地域医療機能推進機構北海道病院	75.1%	344.5
10 独立行政法人国立病院機構北海道医療センター	67.0%	291.0
11 J R札幌病院	72.4%	252.4
12 勤医協中央病院	28.5%	203.3
13 医療法人徳洲会札幌徳洲会病院	39.1%	186.2
14 医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院	23.4%	144.3
15 社会医療法人医仁会中村記念病院	47.7%	133.9

※DPC算定対象患者のみ

4. 地域医療の概況を踏まえた検討の方向性

将来動向

- 人口減少が進む一方で、高齢化率は上昇
- 年齢階級の上昇に伴い、受療率や入院となる割合が高まる傾向

患者推計 と 必要病床

入院患者

2040年まで
上昇見込み

外来患者

2030年まで
上昇見込み

札幌医療圏において

高度急性期病床は**不足**
急性期病床数は**過剰**

検討の ポイント

- 将来の医療需要増を見込んだ機能強化・体制の整理
- その中で市立札幌病院が担うべき役割を明確化
- 医療圏全体での必要病床数を踏まえた病床規模の設定

Ⅱ. 市立札幌病院の現状と課題

1. 病院概要

基本理念	すべての患者さんに対してその人格信条を尊重し、つねに“やさしさ”をもって診療に専心する。
運営方針	<ol style="list-style-type: none">1. 患者さんの人格を尊重し、患者さんに信頼される医療を行います。2. 地域医療支援病院として、地域医療の充実・発展に貢献します。3. 高度急性期・急性期医療を担い、安全で質の高い医療を提供します。4. 自治体病院として他の医療機関では対応が困難な政策医療を提供します。5. 医療技術の向上を図り、優れた医療従事者を育成します。6. 全職員が連携し、信頼しあう、明るく誇りの持てる「チーム市立札幌病院」をつくります。7. 公営企業として健全な財政運営を図ります。
使命	市民のため、「最後のとりで」(※)として地域の医療機関を支える。 ※「最後のとりで」とは、高度急性期の医療を担う公的病院として、対応が困難ないかなる患者についても断らないという姿勢を示したものの。
役割	<ol style="list-style-type: none">1. 高度急性期病院として地域の医療機関を支える。2. 地域医療支援病院として地域の医療機関を支える。3. 北海道・札幌市の将来の医療を担う人材を育成する。4. 良質で安心できる医療・サービスを安定的に提供する。

1. 病院概要

住所	北海道札幌市中央区北11条西13丁目1
病床数	672床（一般626床、精神38床、感染症8床）
患者数	外来：1,070人/日、入院：457人/日（令和4年度）
職員数	1,163名（令和5年4月1日時点） 【内訳】医師・歯科医師：168名、看護師・助産師：762名、薬剤師：42名 臨床検査技師：40名、診療放射線技師：33名 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士：30名 臨床工学技士：15名、栄養士：5名、その他：68名
標榜診療科	全33科 呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、 糖尿病・内分泌内科、リウマチ・免疫内科、血液内科、 脳神経内科、小児科、新生児内科、外科、整形外科、 形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、 乳腺外科、皮膚科、泌尿器科、腎臓移植外科、産婦人科、 眼科、耳鼻咽喉科・甲状腺外科、リハビリテーション科、 感染症内科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、 緩和ケア内科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科、精神科

1. 病院概要

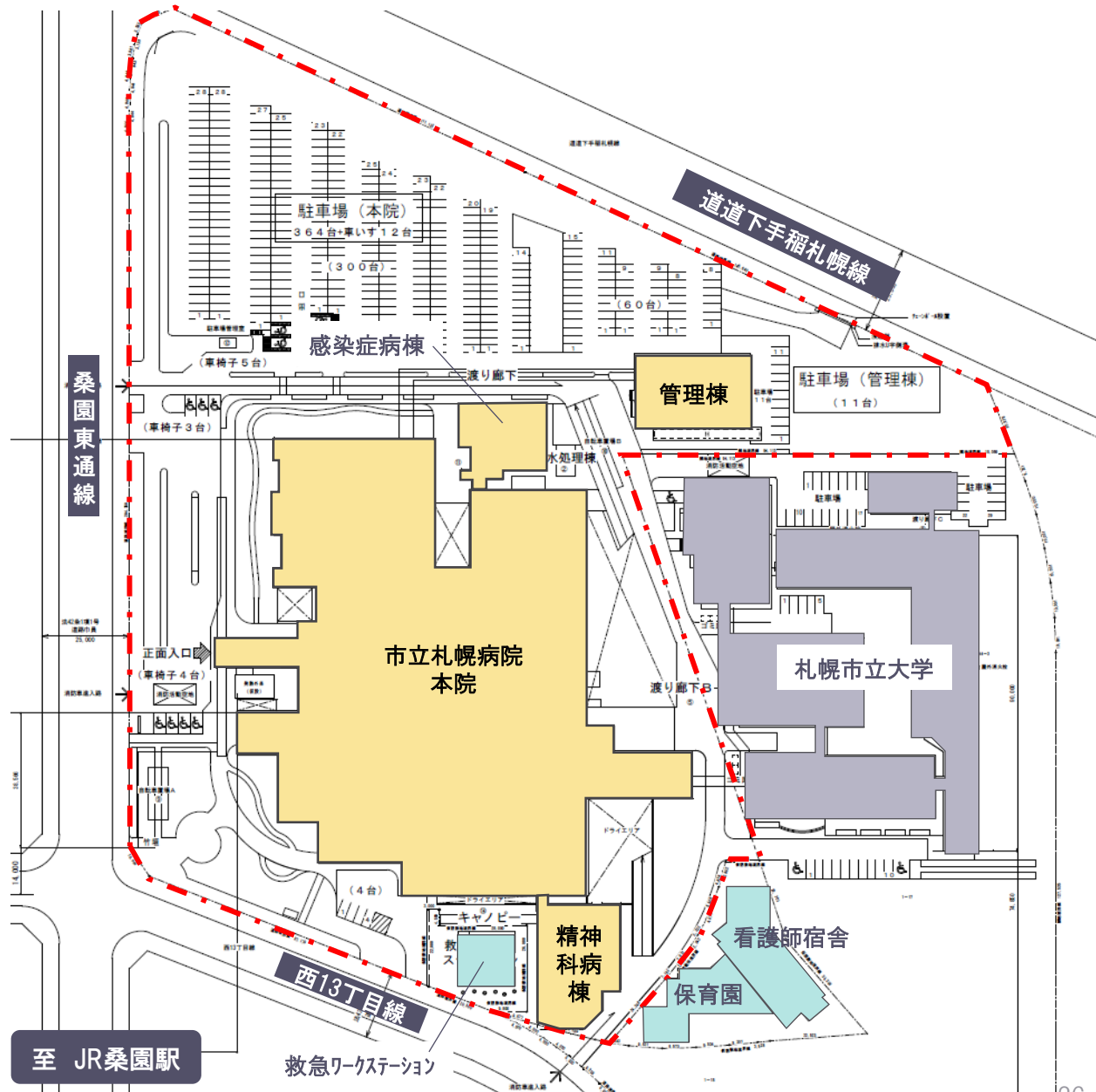
主な指定	DPC対象病院（平成20年7月1日～） （財）日本医療機能評価機構認定病院（3rdG:ver1.1） 臨床研修病院（医師）（単独型）、臨床研修施設（歯科医師） 救命救急センター、精神科救急医療施設 災害拠点病院、災害派遣医療チーム北海道DMAT指定病院 地域がん診療連携拠点病院 総合周産期母子医療センター 第一種及び第二種感染症指定医療機関、エイズ治療拠点病院 地域医療支援病院
特別医療室・設備	集中治療室（ICU）、新生児集中治療室（NICU）、無菌室、 冠動脈疾患集中治療室（CCU）、母体胎児集中治療室（MFICU） ハイケアユニット（HCU）
施設規模	地下2階、地上10階、塔屋2階、ヘリポート 建築延面積：64,553.57m ² （敷地面積：43,841.94m ² 、建築面積13,578.39m ² ）
その他施設	敷地内：救急ワークステーション、院内保育所、看護宿舎 隣接地：札幌市立大学桑園キャンパス

2. 沿革

年 月	概 要
明治 2年	平帰一、斎藤龍安らの医師が民家に開拓使治療所（仮病院）を開設し、札幌元村（現東区北13条東16丁目付近）に小屋を設け仮病院を移転。
明治 24年	北1条西8丁目に建設した新病院に移転。 （以来平成7年までこの地において業務を行う）
大正 9～12年	大正9年の大火により病院焼失、大正12年に市立札幌病院本館が竣工。 大正11年の市制施行により市立札幌病院となる。
昭和 44～48年	昭和44年に創立100周年を迎える。 昭和48年に臨床研修指定病院の指定を受ける。
平成 5～7年	平成5年に救命救急センターの指定を受ける。 平成7年に本院新築工事竣工、本院移転。
平成 17～19年	地域がん診療拠点病院、総合周産期母子医療センター、第一・二種感染症指定医療機関の指定を受ける。 地方公営企業法の全部適用を受け、病院事業管理者を設置。
令和元年	創立150周年を迎える。

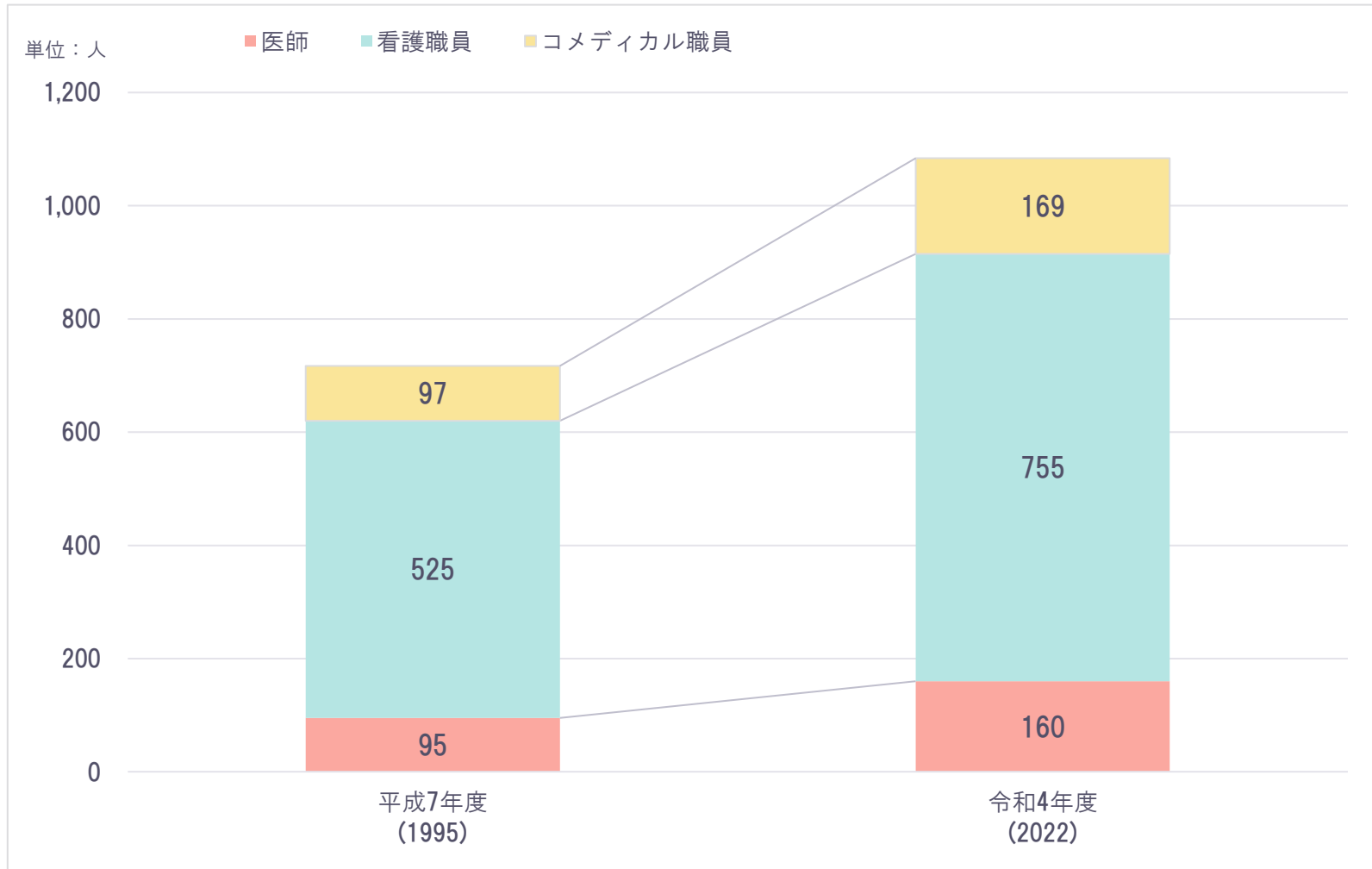
3. 施設の状況

建物名称	建物概要
本院 (外来棟、 中央診療棟、病棟)	1995年竣工 地下2階、地上10階 57,354㎡
精神科病棟	2012年竣工 地上4階 3,020㎡
感染症病棟	2006年竣工 地上2階 518㎡
管理棟	2014年竣工 地上3階 1,451㎡
救急ワークステーション	1995年竣工 地上2階 327㎡
保育園 看護師宿舎	1995年竣工 地上4階 2,088㎡
駐車場	387台分



4. 職員数の推移

- 医師・看護職員・コメディカル職員数について、現在の建物が竣工した平成7年度（1995年度）から令和4年度（2022年度）にかけて約1.5倍となっている。



5. 施設・設備の主な課題 (1)老朽化の課題

- 病院は24時間体制で稼働しており、老朽化の進行が早い傾向。
(特に診療棟の排水設備の老朽化が著しい)

現在の対応

- 老朽化した設備等に応急対応を実施し、医療機能を持続
⇒今後の安定的な医療提供のためには躯体保護や設備に関する大規模投資が必要



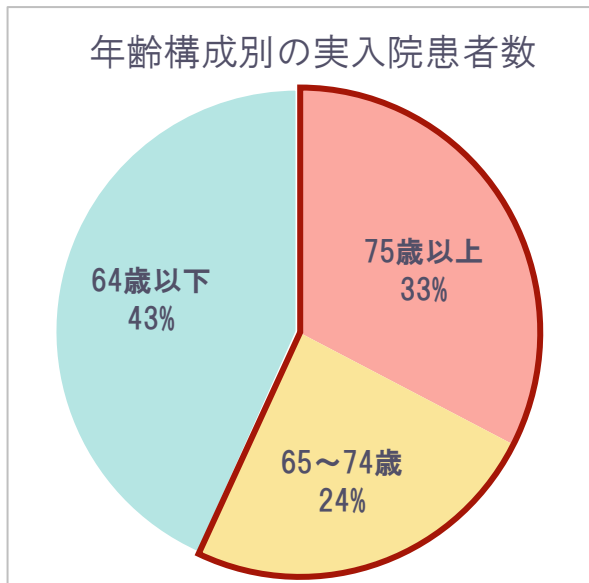
給排水設備の配管の腐食状況



給排水設備の配管の腐食状況

5. 施設・設備の主な課題 (2)狭隘化の課題

- 入院患者の高齢化による影響
(ベッドまわりのケア、医療機器の増等)
- 現在の4床室の多くは5.8㎡/人であり、スペース確保が困難
※現行の医療法施行規則では6.4㎡/人 のスペースを確保することとされている。
※療養環境加算の算定要件では平均8.0㎡/人 のスペースの確保が必要
- 職員数の増加による執務スペース等の確保が困難
- 医療機器の大型化



出典：院内統計データ「令和4年度DPCデータ」より

市立札幌病院の4床室の状況

5. 施設・設備の主な課題 (3)新興感染症等への対応

- 感染患者専用動線、エレベーターの必要性
- 一般病棟の個室不足（個室率約15%）
- 感染管理に適した陰圧設備のある病室の整備
※病棟内の空気の流れを柔軟に調節できる施設整備が必要
- 感染患者と一般患者とを分離した水回り設備(トイレ等)の整備



感染患者受入時のエレベーター



感染患者受入時の病室内の様子

5. 施設・設備の主な課題 (4)災害医療への対応

- **災害拠点病院**としての機能の強化

(災害時でも診療機能を維持できる体制を備えた病院)

免震構造

免震とは…

「免震部材により地盤と縁を切り、
建物への揺れを防ぐ構造」



医療機器の損傷を抑える

※他の災害医療を担う大病院においても
免震構造を導入する事例が増えている

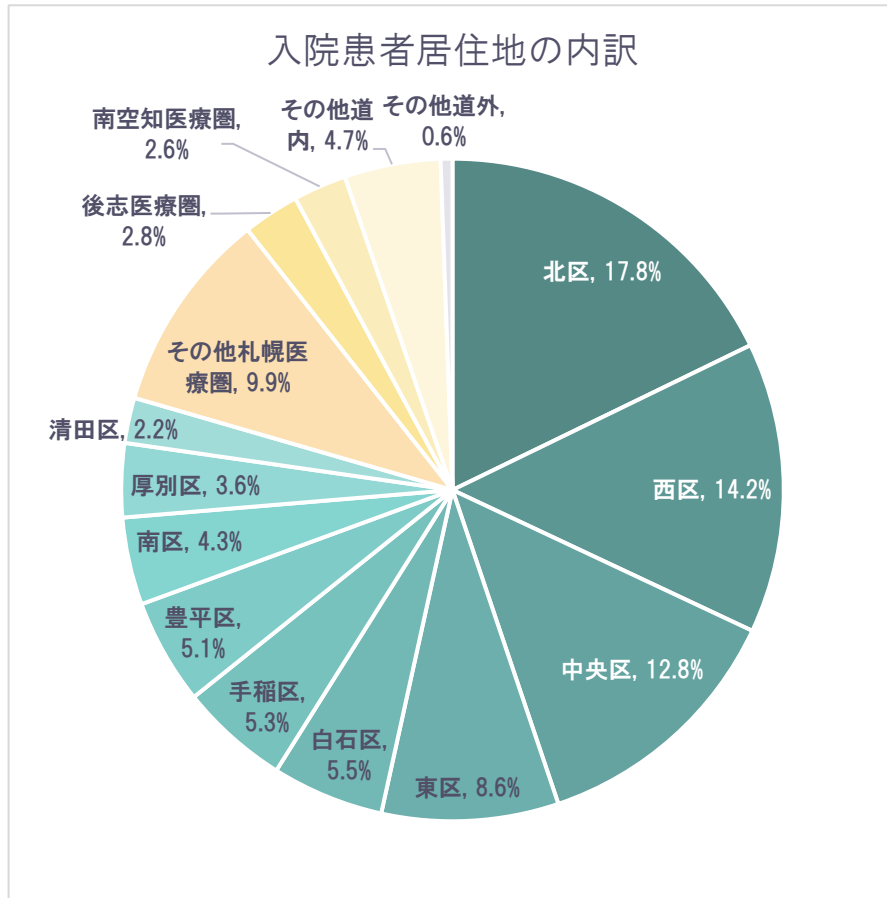


他病院の免震構造導入事例

6. 入院患者の構成

(1) 入院患者の居住地

- 市立札幌病院の入院患者居住地は、札幌市内の患者が全体の**約8割**を占めている。
- 北区、西区、中央区の順に多く、全体の**約5割**を占めている。

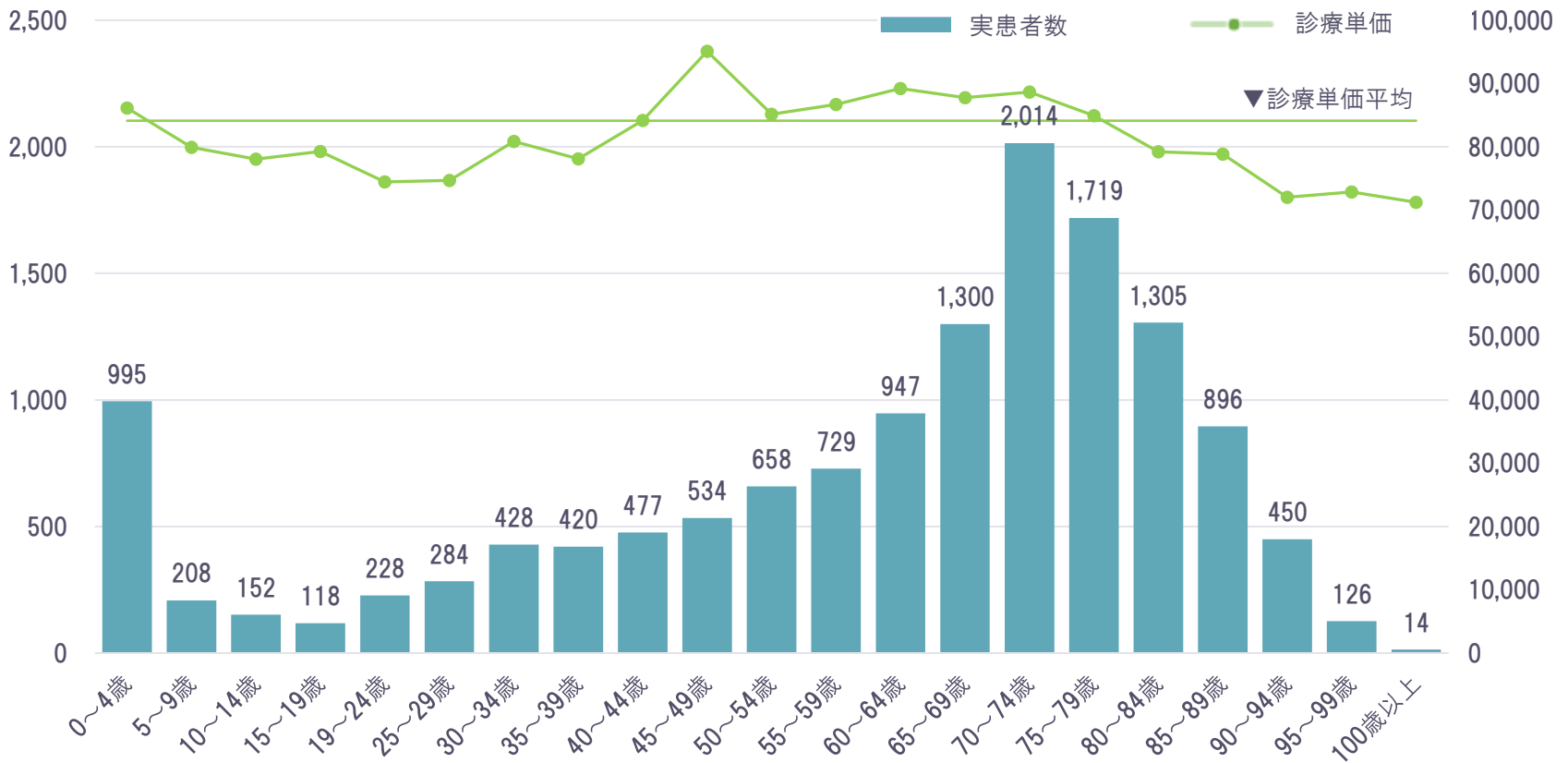


出典：院内統計データ「令和4年度DPCデータ」より

6. 入院患者の構成

(2) 入院患者の年齢

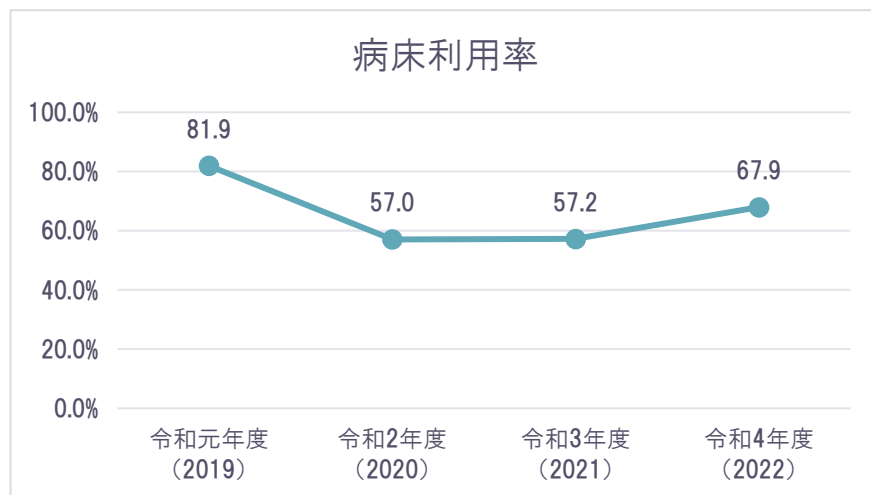
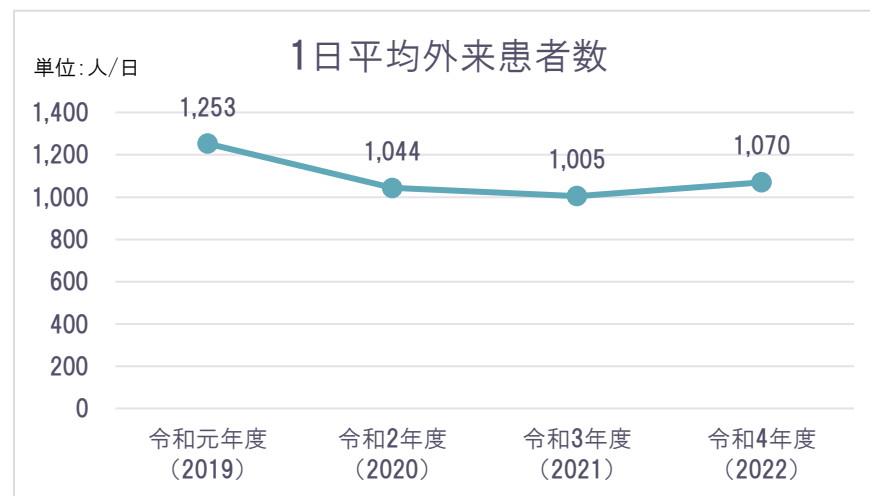
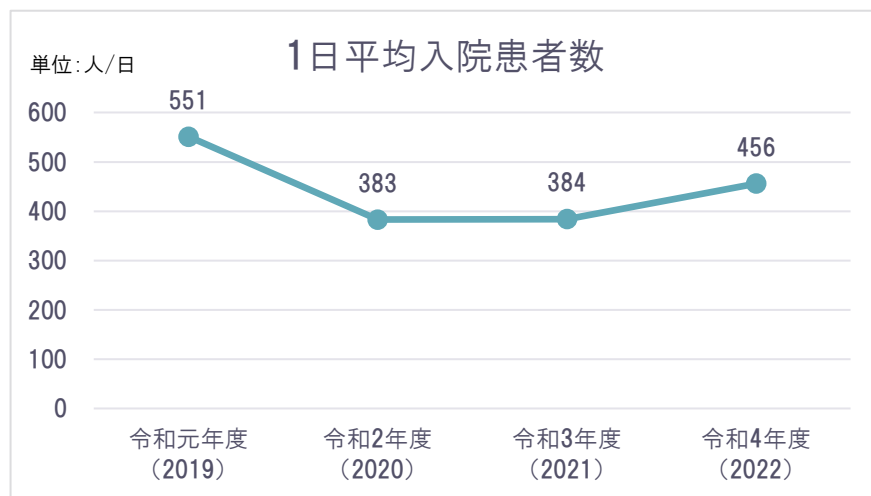
- 市立札幌病院の入院患者の年齢は、70～74歳の患者数がピークである。
- 5～39歳および80歳以上の患者の診療単価は診療単価平均よりも低い。



出典：院内統計データ「令和4年度DPCデータ」より

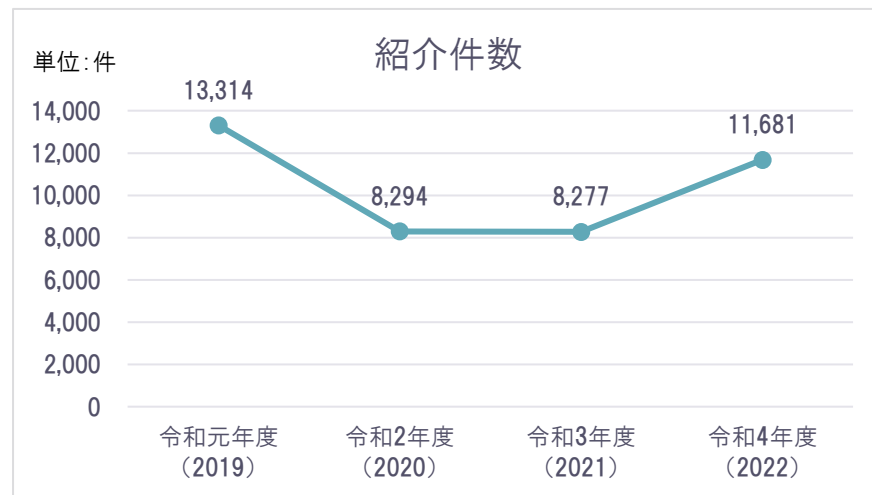
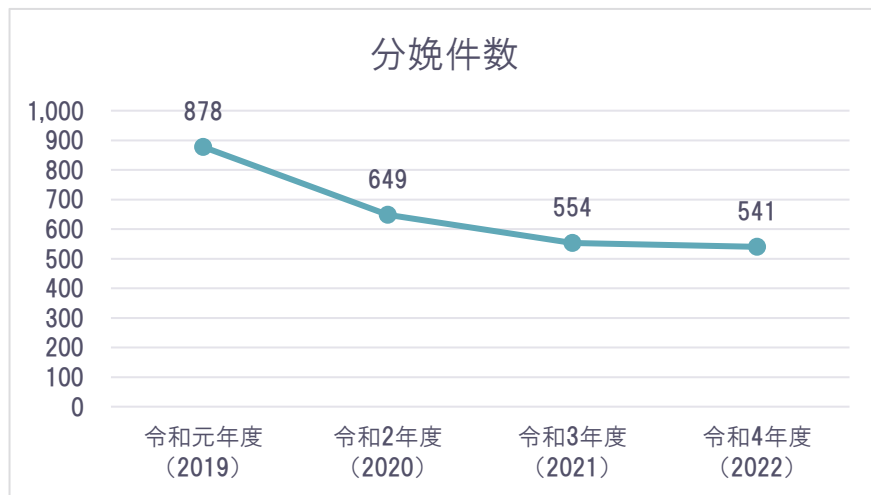
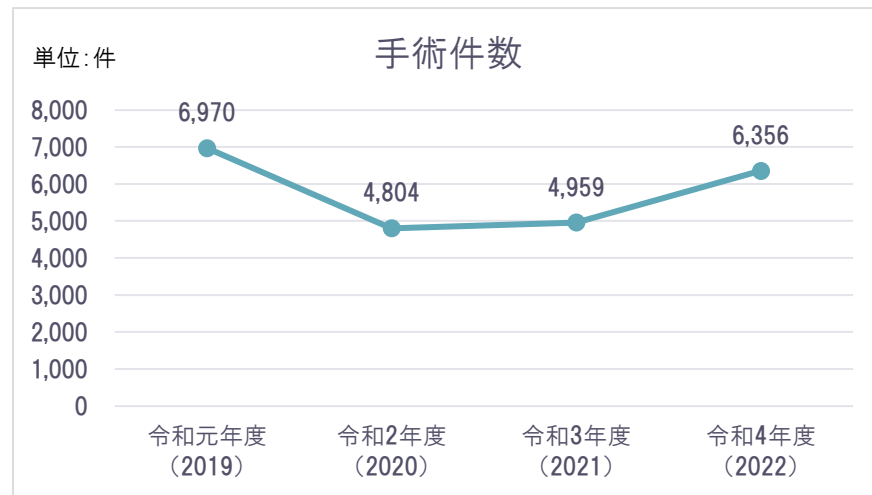
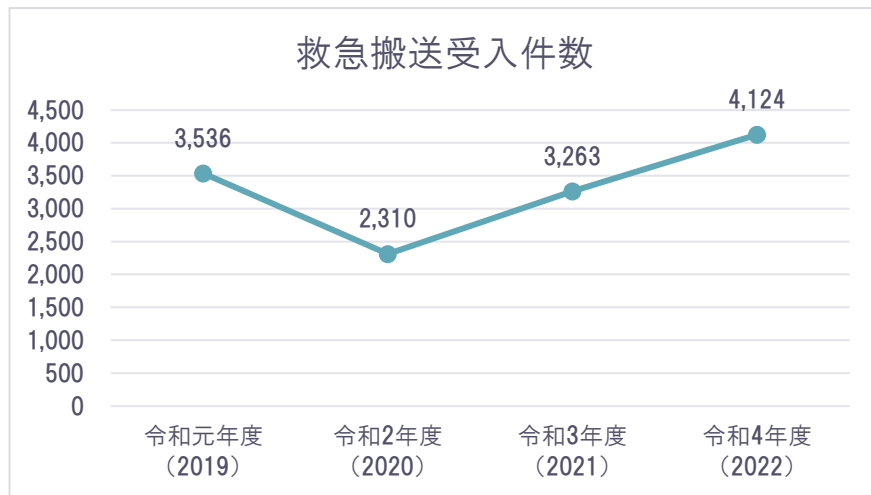
7. 主な診療状況の推移

- 患者数および病床利用率は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年に落ち込み、2021年以降回復傾向にある。平均在院日数は横ばいとなっている。



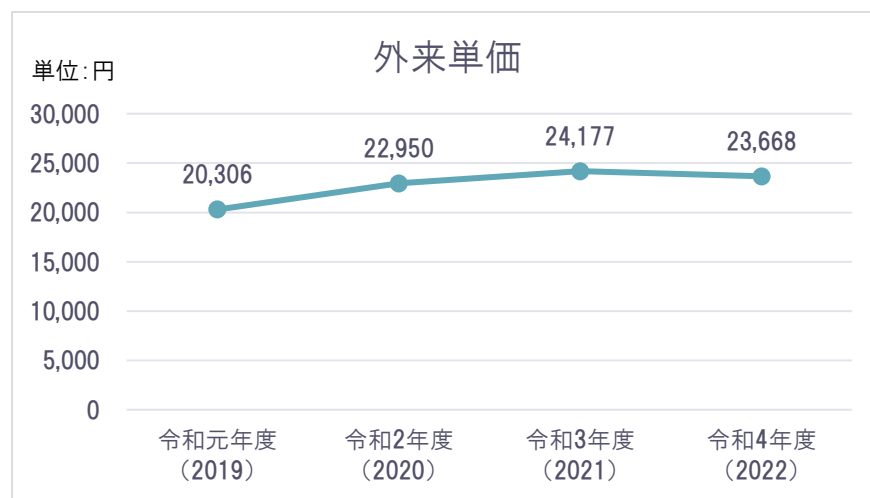
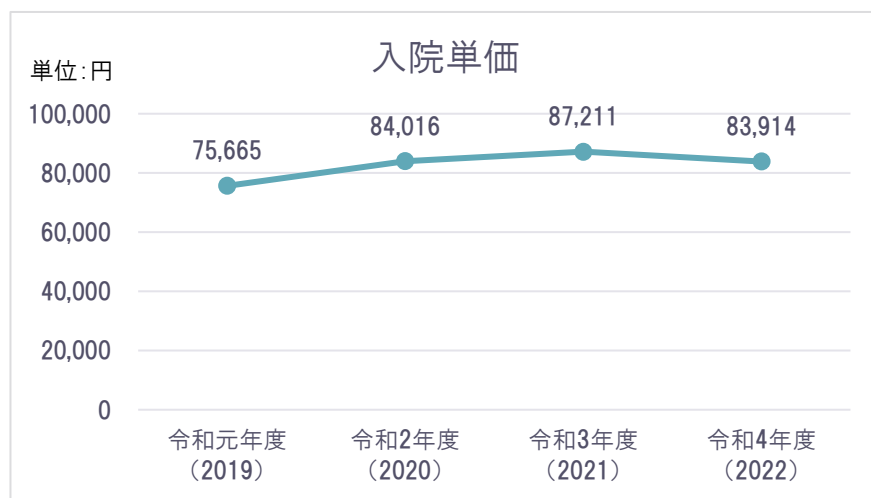
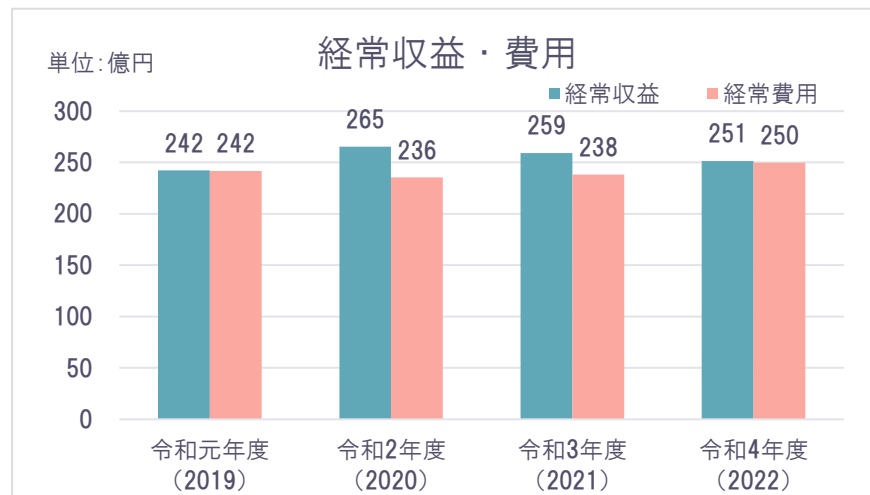
7. 主な診療状況の推移

- 各部門実績は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年に落ち込み、2021年以降増加傾向にある。分娩件数については、年々減少している。



8. 主な経営指標の推移

- 令和2年度以降の経常黒字は新型コロナウイルス感染症対応に伴う病床確保補助金による影響が大きい。
- 当該補助金が縮減となる令和5年度以降では経常赤字を見込んでいる。



9. 施設・設備の課題に対する検討の方向性

課題

- 建築から28年が経過し、配管設備等が老朽化
- 職員数の増加や大型医療機器の導入等により施設が狭隘化
- 新型コロナウイルス感染症を経験し、問題が顕在化
 - ・ 個室不足
 - ・ 一般患者との動線分離
 - ・ エレベーターの不足
- 大規模地震時の医療機器の保護

検討の ポイント

- 感染症・災害に強い施設設備の整理
(第1・2種感染症指定医療機関、災害拠点病院としての機能を強化)
- 課題解決のための施設整備手法を整理
- 概算費用の算出、再整備費用を含んだ収支計画の整理

10. 経営改善に向けた検討の方向性

課題

- 経常収益の大部分を占める“入院収益”の増加
- 経常費用の縮減
(委託費・職員人件費・材料費)

検討の ポイント

- 新入院患者の増に向けた取組・指標の設定
(紹介・逆紹介の増、救急患者の受入強化)
- 経常費用の見直し・指標の設定
- 中長期的な収支見通しの作成

今後のスケジュール

●開催スケジュールと各回想定テーマ

回	時期	テーマ（想定）
第1回	3月14日	札幌市の医療概況・市立札幌病院の現状と課題
第2回	4月下旬～ 5月中旬頃	災害・感染症等への対応、機能強化の方向性
最大3回 程度開催	6月頃～ 9月頃	次期中期経営計画に向けた基本目標・各種取組
		病院再整備事業の概要整理
最終回	10月	最終報告

